

コース 20 きりふこうげん あかなぎやま きぬぬましつげん 霧降高原・赤薙山と鬼怒沼湿原

リーダー CL K/T SL M/T
 実施日 平成24年7月7、8日（土、日） 天候 雨
 参加者 17（男性 5 女性 12）
 グレード C
 コースポイント



高清水自然園(南会津町)

ポイント	到着時間	出発時間	備考
7日 秋葉区役所前		5:00	駅西口・新津IC・会津板下IC 経由
高清水自然園	8:00	9:00	雨の中、予定変更で、南会津町のヒメサユリ園へ廻る
霧降高原	11:15	12:00	猛烈な雨とガスのキスゲ平下方より、キスゲを見上げる
同上、バス車中	12:00	12:25	車中で昼食
女夫淵温泉 P		13:25	ここで、宿のバスに乗りかえる
八丁の湯	13:55		14:40~15:10 ミーティングで明日の登山中止を決定
8日 八丁の湯		10:00	山行ではあり得ない“朝風呂”を楽しんだ
女夫淵温泉 P	10:25	10:30	“予定どおり”雨が降ってきた
塔のへつり(下郷町)	13:30	14:05	案外多くの人々が未だ見ていなかった
秋葉区役所前	15:30		皮肉にも新潟県は良い天気

山行等概要（幹事のコメント）

- 残念ながら、雨に^{あが}祟められた2日間だったが、いささかの救いは「秘湯」八丁の湯での一泊だった。一週間前の予報では、7日は曇りと半傘マーク、8日は、お日様と曇り半々マークで、これならなんとかやれるな、と思っていた。
- だが、実施の直前、南から上ってきた前線が停滞し両日とも雨に変わってきた。しかし、山は（山の天候は）当日、現地へ行ってみないとわからない。と考え出発した。しかし、福島県へ入ったら雨、もちろんその日の朝の日光方面の予報も雨。これでは、霧降高原も、まして赤薙山は無理と南会津町のヒメサユリ自然園へ廻ることにした。
- その後、霧降高原へ向かったが、あまりのガスと雨でびっくり、それでもバスから降りてキスゲの盛りのキスゲ平下方を一巡して、ほうほうのいで宿へ向かった。
- 宿で、早速天気予報を確認、前線は栃木北部にかけて渋滞し、今夜にかけて豪雨、明日も午後再び大雨と雷予報、宿の主人の“雨による昨年の遭難騒ぎ”の話とも併せて考慮し、参加者一同ミーティングの結果“明日の山行は中止”と決定した。
- 参加者の皆様のご理解とご協力に感謝します。



秘湯「八丁の湯」にて

滝上部横の湯ふねは、先の地震で底が抜けて、修理不可能とのこと

「秘湯八丁湯」

(1471) A/I

悪天を予想した、リーダーの追加プランが最初に実行された。そば降る雨の中、ひめさゆりの群生地「高清水自然公園」の散策である。開園時間 8.00 ぴったりに到着、今日最初の入園者となった。濡れた木道、傘をさしてのそぞろ歩き。盛期を若干過ぎた横向きに咲くピンクの花々が私達を迎えてくれた。獣害防止の電気柵に守られて、実生より育てて 10 数年、一株に 5~6 個の花々をつけて誇らしげに咲いていた。圧巻はワラビ。窪地状のヒメサユリの群生地の高みの隅々まで密生して、胸の高さまでに生えていた。この場所より 401 号線を挟んで南南西方向に、ゲレンデでヒメサユリが観られる、会津高原南郷スキー場。そしてその奥に湿原一面に咲き誇る見事なワタスゲが、静かなたたずまいをみせる宮床湿原がある。

霧降高原はその名にたがわず濃霧の中。四囲は幽玄の世界。レーンウエアに傘をさしての散策。霧雨に濡れたピッカピカの木道、木道階段を上がりきればニッコウキスゲの群生地。霧にぼんやり黄色の花々が見え隠れする。遠くに聞こえる雷鳴の中、傘をさしての記念撮影も程ほどに、車に逃げ込んだ。

女夫淵で車を乗り換えて、今夜の泊宿、秘湯八丁湯に向かう。木々の緑は、所どころ深緑には少し早く、間断なく降り続く深山の雨にすっかり洗い流され、印象的な風情をみせている。時々カラフルなレーンウエアに身を固め、傘をさしての登山者に行き交う。溪流沿いの木々に囲まれたモダンなログハウスの前を通り過ぎれば、山懐にいだかれて今も残る古き良き時代の面影の漂う本館の前に到着である。

山深き秘湯を訪ねたのは、じつに久しぶりのことであった。ライトアップされた露天風呂の正面より流れ落ちる瀧の風情は、心休まるものであった。そば降る雨の中、白色の光の中に飛び込みフラッシングしながら乱舞する発光体の動きは圧巻。しばし見惚れていた。なにが光っているのだろうと近くに行くと、その正体はこともあろうか蛾の一群だった。すっかり興ざめ、近くに寄らなければ余韻が残ったのにと後悔した。秘湯の宿の土産物売り場はフロントの隣の一角。小さい白色電球の明かりの下に、なんの飾り気も無く土産物は置かれていた。秘湯の宿の演出だろうと思いつつも、こんなところには掘り出し物があるのではないかと、味付けされた五目キノコを買って帰った。大正解。絶品の味、深山の幸をプレゼントしてくれた。



翌朝 7.30 屋根をたたく雨音の中、心配顔の全員が集められる。鬼怒沼湿原行きへの情報交換、打ち合わせである。午前中が勝負の山行。テレビの天気予報は降水確率 50%、栃木に次々と雨雲が流れ込むと伝えている。ピンポイント予報の山岳天気も女峰山、奥白根ともテレビ予報と 50 歩 100 歩。宿の前を濁流となって流れる渓谷の水の濁りも改善する気配もない。昨年湿原に向かった家族連れが、帰路増水の為、沢を渡れず遭難騒ぎ等々、リーダーより報告された。リーダーの中止の判断、決定がくだされる。

無理はできない。参加者全員に安堵の空気が広がる。時間はある。もう一風呂浴びよう。

いつの日にか再び。10.00 宿を後に帰路につく。ゆっくり気分で帰れるのは気分が良いものだ。湯西川パーキングに寄り道、田島パーキングで昼食。塔のへつりで思い思いに時間を使い、一路新津にマイクロバスを走らせた。県境を越えた地、暮れなすみにはまだ少し早い新潟の空には、次の山行の好天を約束するかのように青空が広がっていた。

大変お世話になった。心休まらなかったであろうリーダーをはじめ、お世話いただいた皆様のご苦労に感謝感謝。

